

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第123回本部会議 記録

日 時／令和4年8月25日（木）
15：35～：16：00
場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】

これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部の第123回本部会議を開催します。
まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

【佐賀井新型コロナウイルス感染症対策監】

資料1をご覧くださいと思います。まずスライド1です。主な指標の状況につきまして、昨日24日時点ですが、新規感染者数は全ての地域で今週先週比が1を上回り、人口10万対では札幌市966.0人、札幌市を除く地域で925.4人、全道で940.8人と増加傾向が継続しておりまして、療養者数も同様の傾向にございます。また、病床使用率ですが、札幌市で44.5%、札幌市を除く地域が39.5%、全道で41.1%と増減を繰り返しながら高い水準で推移しております。

続いてスライド2です。各圏域の状況ですが、新規感染者数の先週比が多く圏域で1を上回っておりまして、引き続き、全ての圏域が高い水準で推移し、療養者数も同様の傾向にあります。また、病床使用率ですが、増減を繰り返しておりますけれども、十勝圏、道北圏、道南圏などで40%から50%台と高い水準にございます。

続いてスライド3、総評1です。全国の状況です。減少傾向にありました新規感染者数が再び増加に転じてきておりまして、病床使用率も増加しております。国の専門家は、多くの地域は全国でこれまでの最高値を上回り、最も高い感染レベルが継続していると指摘しております。本道は他県と比較するといずれも低い状況が継続しております。

医療提供体制です。療養者数は増加傾向となっております。病床使用率はここ数日増減を繰り返し、札幌市も同様の傾向にあります。重症病床使用率は、2.2%と減少傾向にございます。

感染状況です。新規感染者数は、8月17日に先週比が1を下回ったものの、8月19日以降は1を上回る状況が続いておりまして、増加傾向にあります。年代別では30代以下の割合は約5割となり、10代未満を中心に増加幅が減少してきております。その一方で、60代以上の割合は約2割と増加しております。

今後の対策です。新規感染者数は、先週比が1を上回って推移し、お盆時期の前を上回る水準となっておりますので、感染の拡大に警戒感を高めつつモニタリングをまいります。

続いてスライド4、総評2です。「BA.5対策強化宣言」の下、引き続き、道民の皆様に基づ本的な感染防止行動の徹底やワクチン接種の検討を呼びかけますとともに、事業者の方々には、感染防止対策と社会経済活動の両立に向けまして、取り組んでいただけるよう働きかけてまいります。特に60代以上の高齢者の方々への感染割合は増加しておりますので、改めて重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患のある方、そうした方々と会う方の双方が基本的な感染防止行動を徹底するよう働きかけてまいります。

また、新学期に備えまして、学校での感染防止対策の徹底の再確認を行ってきた中、道内の感染状況が高い水準のまま新学期が始まっておりますので、改めて児童、生徒や保護者に対し、感染防止行動の徹底やワクチン接種の検討を呼びかけてまいります。

続いて道の陽性者登録センターは、庁内体制を整備し、8月23日から札幌市を除く石狩管内を対象に、抗原定性検査キットの配布や、陽性者の登録を開始しております。診療検査医療機関の負担軽減のため、引き続き、市町村と連携し、利用に関する広報を行いますとともに、全道展開に向けまして、感染状況等に応じた地域との調整など準備を進めてまいります。また、自宅療養を行う際の健康観察や症状が悪化した場合の対応といった注意点などについても、改めて周知してまいります。

次に、自宅療養セットの配送ですが、本日、8月25日から委託先を3社体制とし、配送力を強化いたしますとともに、より一層迅速な配送に向けまして、8月31日までにセット内容の小型化なども進め、順次配送を開始してまいります。

無料検査は、現在125市町村に771ヶ所の登録事業所を設置し、これまで約50万回の検査を実施しております。特に夏休みやお盆時期と重なったこの直近2週間は、これまでの週平均の約2倍と大きく増加し、多くの方々にご活用いただいたところです。引き続き、多くの利用者が円滑に検査を受けることができますよう、関係団体と連携をして検査体制を充実させてまいります。

続いてスライド5、総評3です。道の接種センターでのモデルナワクチンの3回目、4回目の接種は、市町村の接種体制の整備状況や接種対象者のピークなどを踏まえまして、8月27日をもって終了するものの、引き続き、多様な媒体を活用し広報展開を進めるなど、市町村の接種促進を支援してまいります。また、ノババックスワクチンは、道の接種センターで9月25日まで実施しますが、9月には国から2回の追加配分が予定される中、新たに複数の市町村から実施意向が示されておりました。より多くの方が接種を受けられるよう、さらに市町村に働きかけをしてまいります。

続いてオミクロン株対応ワクチンですが、早急に接種対象者や接種間隔などを決定するよう、全国知事会とも連携し、国に求めますとともに、特例臨時接種の期間が9月30日まででありまして、その延長に関する国の動向についても情報収集を進めつつ、関係団体とも共有しながら今後の対応について検討を進めてまいります。

次に、8月24日、国は全数把握の取扱いについて緊急避難措置として、自治体の判断で患者届出の範囲を高齢者や入院を要する方などに限定し、届出対象外の方は感染者数のみの把握とすることや、療養期間を短縮することなど、その見直しの方向性を示したところです。このため、まずは見直しの全体像や詳細内容について、国に確認をしていきますとともに、保健所設置市や関係団体とも共有を図ります。その上で課題の整理を進めまして、有識者のご意見なども踏まえながら、道としての対応を検討してまいります。なお、総理、厚労大臣の会見内容などにつきましては、そのポイントをスライドの30にまとめておりますので後ほどご参照いただきたいと思います。

次に、スライド6以降につきまして、何点か主要な動向などを補足説明いたします。

スライドを少し飛ばさせていただきます。スライド24をご覧くださいと思います。

年代別新規感染者割合の推移ですが、左側の円グラフのとおり、感染者割合は足下で10代以下の割合に減少が見られるほか、40代以上の割合が増加傾向にありまして、これまで50%後半から60%台と最も高い状況にありました30代以下の割合は、現状でいきますと50%強となっております。また、60代につきましては実数の増加はもとより、先月の1日で

いきますと11%程度であった割合が現在は約18%となるなど増加傾向が顕著となりつつあります。

続いてスライド26をご覧くださいと思います。ワクチン接種ですが、左側の表でいきますと3回目接種、8月23日現在VRSベースで約346万人、接種率は66.2%と全国を上回っておりまして、このうち65歳以上は約151万人、接種率は90.5%と全国とほぼ同様です。

また、右側の表、4回目接種ですが、これまで約98万人が接種し、このうち60歳以上は約90万1,000人、接種率は44.9%で、全国より4ポイントほど低い状況にあります。下段の表で小児の接種率です。1回目21.3%、2回目19.6%と全国を上回る状況が継続しております。

続いてスライド28をご覧ください。丸の一つ目です。若年層の3回目接種の加速に向けまして、先月開催しました学生座談会の特集記事が、本日発売の情報誌の方に掲載されましたほか、夏休みが終わりまして学校生活の再開により集団活動が活発化しますので、総務部、教育庁と連携し、各学校などに対しましてワクチン接種の検討を促すための周知を図ってまいります。

丸の三つ目です。4回目接種ですが、配分調整などの市町村支援に取り組みますとともに、新たな取組としまして、道が包括連携協定を締結しております銀行の協力のもとに4回目接種用のチラシを各店舗に配置していただきます。

続いてスライド29をご覧くださいと思います。道の接種センターでのノババックスワクチンですが、9月11日（日）接種分も、既に予約枠を満たしている状況でありまして、次の9月18日（日）接種分は、来週の30日（火）から予約を受付いたします。

その他のスライドにつきましては、本日の説明に関するデータや情報でございますので後ほどご覧いただきたいと思っております。資料1の説明は以上となります。

続きまして資料2をご覧くださいと思います。「道内の感染状況等」につきましては、専門家、有識者の皆様のご意見を伺いますとともに、市町村や関係団体の方々にも事前にお知らせしてございます。有識者、専門家の皆様からは、概ね妥当である旨のご意見をいただいております。その内容をご紹介しますと、1のとおりですが、現在の感染の広がりや医療機関の負担のバランスなどから全数把握の簡略化はやむを得ないものの、患者発生届の本来の目的に鑑み、何らかの形で重症化しやすい人や新たな変異株の動向などが確認できるよう、国における制度設計が重要である。2のとおり、新学期が始まり感染者が増える可能性があるため、従来通り地道な感染対策を継続することが必要。こういったご意見が寄せられております。こうした面につきましては今後の対策の参考としてまいります。

私からの説明は以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております札幌市保健所の山口感染症担当部長から、説明をお願いいたします。

【山口札幌市感染症担当部長】

札幌市の山口でございます。資料3に基づきまして、札幌市内の感染状況についてご説明をいたします。

それでは、最初のスライドをご覧ください。新規感染者数の1週間の合計についてであ

りますが、昨日の時点で1万8,940人、人口10万人当たりでは966.0人と、感染状況は高い水準で推移をしております。

それでは次のスライドをご覧ください。札幌市内の入院患者数でございますけれども、黄色い棒グラフ、入院患者数は昨日の時点で308人でございます。重症患者数は赤の折れ線グラフでございますが、1人となっております。入院患者数は、第6波のピークの288人を超えて高い水準で推移しておりまして、確保病床使用率は5割に近い状況となっております。特に介護を要する高齢者の受入病床の使用率は8割近くになっておりまして、さらには、医療従事者が感染等により出勤困難となることも加わり、医療提供体制は厳しい状況が続いております。

それでは、最後のスライドをご覧ください。検査件数のスライドでございます。直近1週間の件数でございますけれども、2万5,859件となっております。陽性率は昨日の時点で73.2%となっております。高齢者等ハイリスク者の重症化を防ぎ、医療への負荷を抑えるためにも、引き続き、基本的な感染対策の徹底とワクチン接種の促進が重要と考えております。

以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に各部、振興局から順次発言をお願いします。まず、教育部長からお願いします。

【池野教育庁教育部長】

それでは資料4をご覧ください。夏季休業が終了いたしまして新学期を迎えておりますことから、各学校及び市町村教育委員会に対しまして、改めて注意喚起しているところでございます。

その内容といたしまして、検温などの健康観察、手洗い、手指消毒、マスクの着用など基本的な感染防止対策の徹底、換気の徹底や身体的距離の確保など、集団感染のリスクの回避などを周知するほか、国の事務連絡に基づきまして、複数の感染が確認された場合であっても、感染経路に関連がない場合などには、必ずしも学級閉鎖を行う必要がないことなどについて合わせて周知しているところでございます。

さらに修学旅行などにつきましては、検温、健康観察の徹底、宿泊施設等との情報共有のほか、部活動につきましては、各団体が作成するガイドラインの遵守、移動や更衣などの場面における人数や時間の制限など、密になる場面の回避などを周知しております。

道教委といたしましては、引き続き、基本的な感染防止対策の徹底を図りまして、学校における感染拡大を防止しつつ、学校教育活動を継続し、児童、生徒の学びの保障に万全を期してまいります。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に誘客担当局長をお願いします。

【中尾経済部誘客担当局長】

それでは資料5、「どうみん割」の対象期間延長につきましてご報告をさせていただきます。本日、国は道民割の財源となっております補助事業について、支援期間の延長を発

表したところでございます。これに伴い、道といたしましても、道民割を9月30日利用分まで延長することを決定し、明日、26日正午から予約販売を開始することといたしました。

なお、お手元の別紙資料にございますとおり、有識者の皆様から延長はおおむね妥当とのご認識の下、厳しい状況にございます観光関連事業者のためにも、感染防止対策を徹底した上で、延長を行うべきといった意見をいただいたところでございます。道としてはこれらの声も踏まえ、引き続き適切に事業を展開してまいります。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に石狩振興局長をお願いします。

【濱田石狩振興局長】

資料6により、石狩振興局の取組についてご説明させていただきます。

はじめに、6月以降の管内の感染状況についてでございますが、1日の新規感染者数は、7月13日から連日2桁台となりまして、徐々に増加し、8月5日には、これまで最多となる727名となったところでございます。

その後も、500人台から600人台の日が続き、1週間の10万人当たりの新規感染者数は、8月24日時点で、前の週に比べ116.4%、942.1人と高止まりの傾向が続いている状況でございます。また、高齢者施設などにおける集団感染も、6月中旬には一旦落ち着きましたが、7月以降、再び発生するようになりまして、これまでに31施設の現地支援対策本部を設置し、現在も21ヶ所の事業継続を支援しているところでございます。

次に、振興局における対応についてでございますが、江別、千歳両保健所の体制につきましましては、新規感染者の減少に伴い、職員の派遣を6月14日に一時中断しておりましたが、7月中旬以降の感染状況を踏まえ、7月26日から振興局各課に加え、本庁からも応援職員を派遣していただき、8月からさらに増員するなど、感染者の急増に対応しながら、速やかな体制強化を図ってきたところでございます。ご協力いただいております各部局の皆様にはこの場をお借りしてお礼を申し上げる次第です。

また、管内の市町村とは、全ての首長の皆様が集まる機会に、感染状況や危機感の共有を図るとともに、個別に意見交換などを行いながら、感染拡大防止対策の取組やワクチン接種の促進などについて働きかけを行ってまいりました。

北海道における「BA.5対策強化宣言」に合わせまして、速やかに地方本部会議を開催し、お盆休みに向けた住民の皆様への呼びかけなどの取組を徹底することといたしまして、振興局からチラシによる感染拡大防止メッセージを発出したほか、SNSやホームページを通じ、感染拡大防止やワクチン接種、23日から始まりました「北海道陽性者登録センター」についての情報などを日々発信しているところでございます。

また、人の移動が活発化する時期を迎え、宿泊施設に対しまして、本庁経済部とも連携し、感染防止対策徹底の周知を行いましたほか、若い世代の方々に向けまして、当振興局と連携事業を実施しております大学とのウェブ会議において、学生の方々に帰省などの際に、高齢者など重症化リスクの高い方と会う場合の感染防止対策の徹底や、ワクチン接種について呼びかけを行ったところでございます。

さらにこの週末には、札幌市の羊ヶ丘展望台で開催されますイベントに、石狩地域のPRブースを管内の市町村と連携して出店することとしておりまして、来場者の皆様には、管

内の取組や特産品のPRとあわせまして、感染防止対策などについても普及啓発を行うこととしております。

石狩振興局といたしましては、住民の皆様の安全安心の確保のため、市町村や関係機関などと緊密な連携と情報共有などを図りながら、住民の皆様への呼びかけや、感染拡大防止の取組の継続的な実施に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

この他、各部、振興局からご発言はございませんか。なければ本部長お願いいたします。

【本部長（鈴木知事）】

本日の道内の新規感染者数は6,550人と、人口10万人当たりでは940.8人。ここ1週間、増加傾向が続いています。また、全道の病床使用率は41.1%と増減を繰り返しながら、横ばいで推移をしています。新規感染者数、病床使用率、いずれもお盆時期の前を上回る水準になっています。国の専門家からは、多くの地域や全国でこれまでの最高値を上回る、最も高い感染レベルが継続していると指摘をされております。道内においても予断を許さない状況にあります。

こうした中、昨日であります、岸田総理から全数把握の取扱いについて、緊急避難措置として、自治体の判断で患者届出の範囲を高齢者などに限定し、届出対象外の方は人数のみの把握を可能とする見直しの方向性が明らかにされました。現時点では、詳細な内容は国から示されていないわけでありましたが、実施するかどうかは自治体の判断とされています。今回の見直しは、今後の感染症対策の根幹に関わるものであります。国の判断の下、全国統一的な取扱いが求められます。また、今回の取扱いは、緊急避難措置とされているわけでありましたが、その位置づけが判然としていません。こうした点や、健康観察のあり方も含めた見直しの全体像、内容の詳細について国に確認し、保健所設置市や関係団体と協議を図ってまいります。その上で、課題の整理を進め、有識者のご意見なども踏まえながら、道としての対応を検討するよう指示をいたします。

8月10日から「BA.5対策強化宣言」の下、「夏の感染拡大防止パッケージ」の取組を進め、2週間が経過いたしました。高い感染レベルが継続する中、必要な方に適切な医療を提供していく、このことが重要であります。これまで入院患者数の増加を見越した、即応病床のフェーズの引き上げを行うとともに、発熱外来への受診の集中を緩和するよう、「北海道陽性者登録センター」を設置し、抗原定性検査キットの配布や、陽性者の登録を開始したところであります。引き続き、保健・医療提供機能を十分発揮させるよう、市町村や関係団体とも連携し、取組を進めてください。

また、日常生活や夏休みの時期から通常モードに本格的に変わっていく中、誰もが感染する可能性が高まっています。本部員、地方本部員においては、道民の皆様、事業者の方々に、パッケージの取組の実践について働きかけを強化するようお願いいたします。

特に最近、60代以上の方の感染割合が増加してきていることから、改めて、重症化リスクの高い高齢者の方、基礎疾患のある方、また、そうした方々と会う方の双方が、基本的な感染防止行動を徹底していただくよう、働きかけをお願いいたします。

そして、今週から多くの学校で新学期が始まっています。子供たちの学びを守るため、改めて児童、生徒や保護者に対し、感染防止行動の徹底やワクチン接種の検討について呼

びかけをお願いいたします。

ワクチンの接種について、「北海道ワクチン接種センター」におけるモデルナワクチンの3回目、4回目接種については、8月27日をもって終了いたしますが、ノババックスワクチンの接種については、9月一杯継続いたします。ノババックスワクチンについては、新たなワクチン配分が可能となったことから、市町村での接種拡大に向け、働きかけを強化するようお願いいたします。

「夏の感染拡大防止パッケージ」の集中取組期間は、8月31日までとなっています。9月1日以降の対応について、感染状況や病床の状況などを慎重にモニタリングを行いながら、全数把握の見直しなど、国の動きを踏まえ、検討を進めるようお願いいたします。

最後になりますが、「どうみん割」についてです。これまで、利用期間は8月31日利用分までとしてまいりましたが、9月30日利用分まで延長することといたしました。

引き続き、感染対策を徹底した上でご利用していただくよう、利用者の皆さん、事業者の方々双方への周知について努めていただくようお願いいたします。

私から以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示のあったことにつきまして、本部員は必要な対応をお願いいたします。以上をもって新型コロナウイルス感染症対策本部第123回本部会議を終了いたします。

（了）